

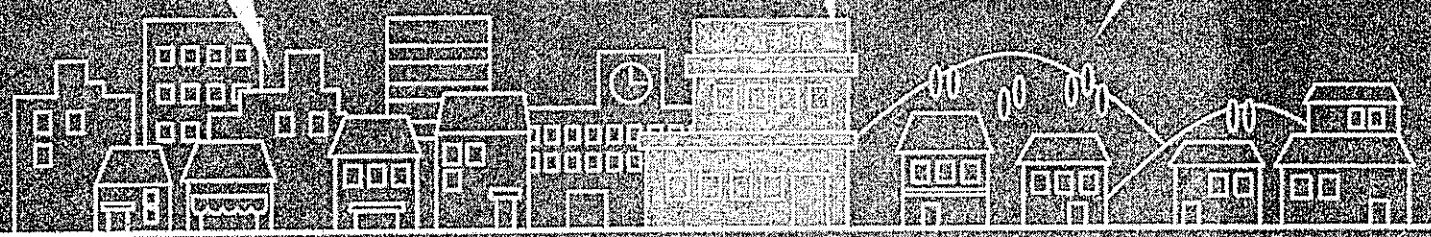
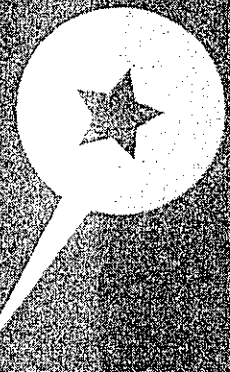
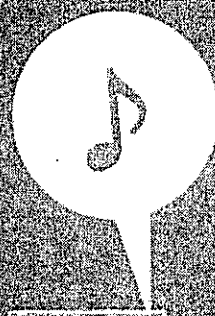
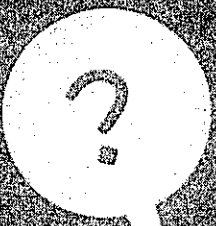
実証！「地域力」醸成プログラム

今、

しまねの

公民館が

おももしろい！



公民館には、 「地域力」を醸成する ソフトウェアがあります。

公民館には、地域の課題解決に向けて住民を巻き込み、主体的な学習・実践活動に結びつけていくソフトウェアがあります。

- ① 地域課題（地域福祉、安全安心、環境、子育てなど）を住民自ら解決していく。
- ② 地域づくりに意欲を燃やす住民・NPO法人等が集まってくる。
- ③ 子どもから高齢者まで幅広い世代の住民を巻き込む。

(注)「地域力」とは、住民が自ら地域の課題を掘り下げ、その解決に向けた主体的な学習・実践活動に結びつけていく力、すなわち自治・自立の理念に基づく地域の底力のことを表しています。「ソーシャル・キャピタル」とも呼ばれ、近年、注目を集めています。

■事業内容

- ①実証！「地域力」醸成プログラムは、公民館が培ってきた「地域力」醸成のノウハウをモデル公民館の具体的活動を通じて実証することにより、「地域力」の重要性について世論喚起することを目的とします。
- ②モデル公民館の選定については、島根県公民館連絡協議会に設置した選定委員会が、県内の公民館等から公募した企画提案について、そのプレゼンテーションを直接聴取する方法で審査し、決定します。

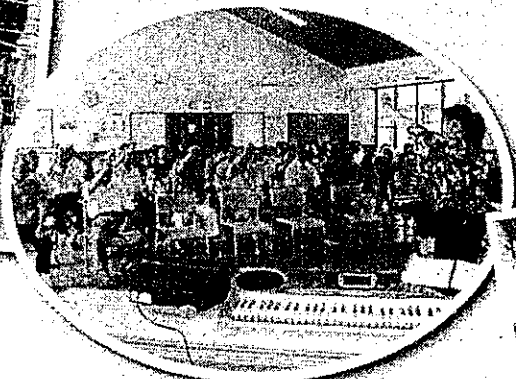
モデル公民館の取り組みの様子



世代間交流によるイカの一晩干しづくり



親子で見つけるふるさとの宝 化石発掘



音楽療法で高齢者の健康づくり



暮らしの知恵を先人に学ぶ
こも編みづくり

- 予算額 H19年度 4,000千円（モデル公民館：新規10ヶ所程度）
 H20年度 8,000千円（モデル公民館：新規10ヶ所程度、継続10ヶ所程度）
 H21年度 12,000千円（モデル公民館：新規10ヶ所程度、継続20ヶ所程度）

課題意識は…

① 閉塞感打破への期待感があります。

- (1) 実感の乏しい景気回復。財政縮小に伴い地域経済は疲弊しています。
- (2) 限界集落、著しい少子高齢化、若者の県外流出の加速化が進んでいます。
- (3) この閉塞感を打破し、地域の元気を取り戻してほしいという強い期待感があります。



② 市町村合併後の地域の自立を模索する動きが出てきました。

- (1) 市町村合併後の慌たしさはおおむね収束し、支所（旧町村）機能の見直しの動きが見られます。
- (2) 地域に密着した「世話役」機能が後退しています。（例：市町村議員定数の縮減）
- (3) 自立した地域づくりを急がなければ、広域化した行政区域の中で埋没してしまいかねない、といった危機感があります。



③ 子どもの教育をめぐる深刻な「社会病理現象」が見られます。



- (1) 家庭は、子どもに基本的な生活習慣や規範意識などを身につけさせ、心身の調和のとれた発達を促す上で第一義的な責任を負っていますが、少子化、核家族化、価値観の多様化、雇用の流動化など社会の大きな変化の中で、教育力の低下が懸念されています。
- (2) 学校は、いじめ、不登校、学力・体力の低下、生活習慣の乱れなど根が深く深刻な教育問題への対応に追われ、子どもや家庭と丹念に向き合う心理的・時間的な余裕を失いつつあります。
- (3) 地域は、かつては濃密な人間関係を背景として日常生活の営みの中に教育力を宿していましたが、今やその力を失いつつあり、学校への支援を含め、地域全体で子どもを育む仕組みを意識的に再構築していく必要に迫られています。
- (4) わが国は、バブル経済崩壊後の「失われた10年」からの脱却を目指す中で、経済効率至上主義に陥り、心の豊かさが置き去りにされてきました。

(注) 「社会病理現象」とは、いじめ、自殺、不登校、虐待、学力・体力の低下、生活習慣の乱れなど、複合的・重層的要因によって生じている教育の危機的状態を表しています。

④ 地域の大人が子どもの教育に関わっていく兆しが見られます。

(1) このような状況の中、島根県では、次のような取り組みが進んでいます。

- ①「ふるさと教育」では、地域の大人たちが学校の教育課程（総合的な学習など）に積極的に関わりながら「地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域に学ぶ」ための学社連携・融合の取り組みを、県内全ての公立小中学校・全学年・全学級で実施しています。
- ②「放課後子どもプラン」では、「地域の子どもの地域で育む」取り組みを進め、年齢の異なる子どもたちが体験・交流する場を提供しています。



- (2) 「ふるさと教育」「放課後子どもプラン」の現場では、地域の「ひと・もの・こと」の情報バンクである公民館が、それぞれの活動に深く関わっています。
- (3) これらの取り組みにより、地域の大人が子どもの教育に積極的に関わっていく兆しが見え始めています。

⑤ 公民館活動は、地域によって大きな格差・温度差があります。

- (1) おおむね小学校区単位に設置され、地域住民と密着した公民館の活動は、市町村合併後の地域において「最後の砦」となる貴重な社会資源です。
- (2) それぞれの沿革から、設置運営形態（公設公営方式、公設自主運営方式など）や、所管部局（教育委員会所管、首長部局所管）、職員体制（市町村職員、協議会職員、常勤職員・非常勤職員）など、多種多様な方法で運営されています。
- (3) 市町村合併後の行財政改革の必要性や、合併に伴う各種行政サービスのレベル調整の一環として、公民館の予算・人員の削減や公民館再編・統合の動きも散見されます。
- (4) 社会教育施設としての本来の姿である主体的な学習・実践活動よりも、行政の出先機関的な役割が優先されがち傾向も見られます。

⑥ 今こそ公民館活動に光を当てる必要があります。



- (1) 公民館活動の歴史は終戦直後に遡ります。公民館は、青年団、婦人会とともに戦後復興の原動力となった学習運動が原点です。つまり単なる箱モノではなく、住民の自主性・主体性に立脚した住民自治活動であり、現在の地域づくりの理念とも相通するものです。
- (2) しかし、公民館制度創設から60年近く経過する中で格差・温度差が拡大し、全国的にも逆風が吹き荒れていると言われています。
- (3) こうした状況のもと、公民館活動が永年にわたって培ってきた「地域力」醸成の取り組みに光を当てることにより、地域の大人を巻き込んだ学習・実践活動の重要性について、広く県民の皆様にも再認識を促したいと考えます。

選定モデル公民館

年度	公民館等の名称	美事事業のテーマ
平成19年度	松江市城北公民館	城下町の成り立ちから現代的課題まで、学ぶことから実践を始める
	松江市白湯公民館	空洞化の進む中心市街地で、地域再発見の学習活動が愛着を育む
	松江市法吉公民館	災害時の安否確認や避難誘導などを公民館がコーディネート
	浜田市石見公民館	公民館を核に、地域で子どもを育む大人たちがつながっていく
	浜田市安城公民館	弥栄の「柿洪」を再現。映像記録に残し、住民の気持ちを一つに
	出雲市鶴岡コミュニティセンター	4軒の空き家を核に、UIターン受け皿整備を公民館が支援
	大田市福波公民館	誰でもいつでも気軽に会える場を提供し、異世代の絆を深める
	安来市島田交流センター	地域の自然や人とのふれあいを通して、青少年の健全育成を進める
	雲南市西日登公民館	高齢者の健康を地域で支え、高齢者の元気を子どもや地域の元気に
	邑南町公民館共同事業	公民館が「ひと・もの・こと」の情報バンクとなり、地域の元気を企画
平成20年度	吉賀町蔵木公民館	地域のシンボル「くらぎフェスタ」で、ふるさとの大切さを共有
	隠岐の島町公民館共同事業	クヌギの森で遊ぶ楽しさを大人に知ってもらい、活動の輪を広げる
	松江市古志原公民館	「地域縁」と「目的縁」のネットワークを融合。安全・安心なまちづくり
	松江市玉湯公民館	中学生&高校生が主役。私たちのメンバーズクラブでふるさとづくり
	松江市来待地区公民館	「豊かな田舎暮らし」の可能性を住民自身が再発見。定住対策に自信と誇りを
	浜田市美川公民館	美川の伝統「しめ縄づくり」を通じて交流の輪を拓く。そして地域づくりへ
	浜田市公連・金城自治区会	「偉人に学ぶ」ウォーキングコースづくり。ゆかりの地を巡って郷土を知る
	益田市安田公民館	「菜種」栽培を通じた景観づくり・健康づくり・生きがいづくり
	大田市中央公民館	中高生も参加して、地域で子どもを育む「大田わんぱく遊び隊」
	飯南町頓原公民館	「達人の技」(箆機・製織機・木負子)。伝統工芸に学ぶ先人の暮らしの知恵
平成21年度	美郷町公民館連絡協議会	放置された竹林を伐採して、竹灯籠のイベントを。幻想的な光のオブジェ
	津和野町左鏡公民館	青壮年(親世代)と公民館の連携による過疎地からの果敢な挑戦!
	吉賀町朝倉公民館	人と人がつながる。公民館が接点になって、住民の力で地域づくり
	海士町中央公民館	年記者から若者へ。世代間交流で進める地域の「絆」づくり
	松江市朝日公民館	「在住外国人と共生できるまちづくり」外国人が安心して、生きがいを持って暮らせるために
	松江市本庄公民館	親子で、家族で、地域で中海の再生を 水辺の楽校プロジェクトへの参画【子育て】
	浜田市公連・旭自治区会	「あさひ 楽々教養講座」開講! 「あさひぐらし」を楽しむための学びの場の提供
	浜田市国府公民館	地域の子どもの体験活動を通して、世代のバトンをつなぐための支援
	浜田市井野公民館	「山菜」を「井野の宝」へ 地域の人たちがふれあう自慢のふるさとづくりをすすめる
	出雲市鷹巣コミュニティセンター	「縁〇絆」一人一人がふるさとづくりの主役となり、「協働のまちづくり」を推進する
平成21年度	益田市191交流協議会「輝」	6地区の公民館が心をつなぎ、交流の輪を広げながら地域の活性化を図る
	益田市都茂公民館	お父さんが活躍! 体験活動を通して、親の輪・親子の輪・地域の輪づくり【子育て】
	益田市小野公民館	子どもの現状把握に基づいた、親学と子どもの体験活動支援を広げる
	大田市仁摩公民館	小中学校のボランティア活動を通じた地域連帯感の醸成を図り、「元気なまちづくり」を推進
	安来市広瀬交流センター	ふるさと祭を中心とした催しで、地域活性化グループの活躍の場を提供
平成21年度	江津市さくらえ公民館連絡会	地域をあげた「子ども達の勉強の場」作りと「地域住民や高齢者の活力を呼び戻す場」作り
	雲南市加茂公民館	「活力と魅力溢れる地域づくり」家庭教育を軸として 多くの人々との多様な交流を通じて

実証！「地域力」醸成プログラム

課題意識

“人づくり”の拠点である公民館が培ってきた
「地域力」醸成のノウハウを結集しよう

【社会病理現象】 いじめ、自殺、不登校、児童虐待、学力低下、体力低下、生活リズムの乱れ、引きこもり、社会体験の不足など

地域教育力が低下していると認識している人の割合：55.6% 低下している要因…個人主義が浸透しているため：56.1%
(出典)「地域の教育力に関する実証調査」(平成18年2月 文科省)

島根の現状

- 閉塞感打破への期待感
- 市町村合併後の地域の自立に向けた動き
- 子どもを巡る「社会病理現象」
- 地域に根ざした住民自治活動の再興の必要

公民館には「地域力」を醸成するソフトウェアがある

モデル事業による実証

実証事業

大人世代を巻き込む！

平成21年度予算額 12,000千円 (島根県公民館連絡協議会へ事業委託)

【趣旨】

“人づくり”の拠点である公民館が培ってきた「地域力」醸成のノウハウ(=地域の課題を掘り下げ、その解決に向けた学習・実践活動に大人世代を巻き込んでいく仕組み)をモデル公民館を選定して実証

【事業内容】

- ①モデル公民館の選定件数：30カ所程度(継続20カ所程度・新規10カ所程度)
- ②選定方法
 - ・島根県公民館連絡協議会に「モデル公民館選定委員会」を設置
 - ・選定委員会は、学識経験者、公民館運営に造詣の深い者などで構成
 - ・公民館職員、地域住民、NPO法人、社会教育主事等の英知を結集して企画内容を具体化
- ③実施段階での支援
 - ・公民館、地域住民等の自主性・主体性を精一杯引き出すことを基本とする
 - ・必要に応じて、社会教育関係者が、重点的に現場を応援
 - ・実証事業に要する経費について、モデル公民館の実情を踏まえて助成
 - ・「ふるさと教育」、「放課後子どもプラン」など県教委重点事業においても、公民館活動との連携を一層強化
- ④選定・実証・成果検証に至るプロセスの情報発信
 - ・モデル公民館の選定から実証事業、成果検証に至るプロセスを情報発信し、世論喚起を図る

公民館活動に光をあてる意義

- ① 住民主体の学習活動に結びつくことで、息の長い取り組みにつながる。→大人の意識改革
- ② 熱意ある住民・NPO法人等と公民館との接点を拡大し、継続的な人材交流が生まれる。
- ③ 地域の課題が深く掘り下げられ、奇をてらわない実効性のある取り組みになる。

公民館活動＝地域の「ひと・もの・こと」を結集するソフトウェア

- ふるさと教育
- 放課後子どもプラン
- 地域福祉
- 高齢者の知恵の伝承
- 自立した地域づくり

「地域力」醸成の気運→地域の元気を取り戻す

【発行】島根県教育庁生涯学習課 島根県松江市殿町1番地 TEL0852-22-5429

【URL】<http://www.pref.shimane.lg.jp/shogaigakushuu/>